

<学校名>日高市立高麗川小学校

<所在地>日高市南平沢335

<電話>042-989-0275

<本事例の特徴>

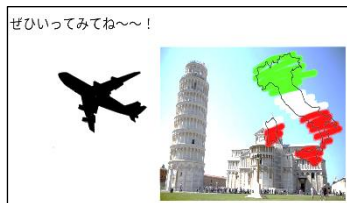
本校は、英語専科教員1名とALTで3～6年生の外国語科・外国語活動を担当している。週1～2回と授業回数が限られている中で、児童たちの興味・関心を高める方法を日々模索している。事例として、(1)ICTを用いた実践、(2)校内掲示の工夫の2点を紹介する。

<具体的な取組や成果>

(1) ICTを用いた実践～6年生 UNIT3 『おすすめの国を紹介しよう』～

実践!

本校では、教師とALTで発表の手本を示した後、グループで『おすすめの国』を決め、原稿を作って発表するよう課題を提示した。原稿は、外国の観光地等の情報、英語のスペルや発音をタブレット端末で調べさせ、協働学習をさせた。教師は教室全体を机間指導しながら、原稿の最終チェックを担った。さらに、発表時のプレゼンテーション資料作りも児童がタブレット端末を操作して用意した。児童に課題のスライドを配布し、児童はネットの検索機能を使って、色鮮やかな国旗や食べ物、リゾート地等の画像を貼り付けてスライドを作成した。



▲児童が作成したプレゼンテーション資料

班のみんなで色々調べられたのが楽しかった。わからない発音はタブレットで音を聞きながらみんなで確認ができた。

他のグループの発表が聞いて面白かった。文を暗記してスラスラ言えるようになりたい。次はもっと大きな声で発表する!

児童の感想

英語で発表ができるか最初は不安だった。無事に発表できてホッとした。自分の班はうまくできたと思うが、他の班もよくできていてびっくりした。どの国も面白そうに興味が出た。特に、フィンランドのオーロラの写真を見て「行ってみたいな」と思った。将来、海外旅行に行きたいなと思った。

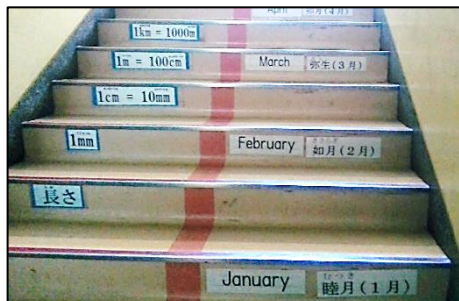
成果!

- ・英語に苦手意識がある児童も積極的に活動に参加していた。
- ・英語を「相手に思いを伝えるためのツール」として使うことができていた。
- ・グループ内で協働し1つのものを作ることで、児童1人1人の力を活かすことができた。
- ・発表を見合うことで、「次は良いものを作りたい」という意欲を引き出すことができた。
- ・諸外国の文化についてインターネットを通し最新情報に触れさせることができた。
- ・タブレット端末の操作方法を含めた情報機器の活用の仕方についても指導することができた。

(2) 校内掲示の工夫

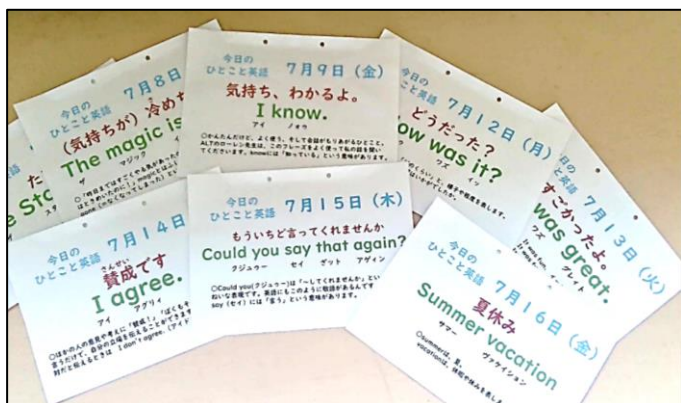
週1～2回と授業回数が限られている中で、英語により興味・関心をもたせるために、本校では英語の校内掲示を工夫している。

①階段ステップの活用



令和3年度から、階段のステップに、月の英名の掲示を追加した。授業で学習した月の英名が定着することを願って掲示している。児童の様子を見ていると、『Months of the Year Song』(月の英名の歌)を口ずさみながら階段を上る児童もいる。今後、曜日や天気といった簡単なフレーズを追加することも検討している。

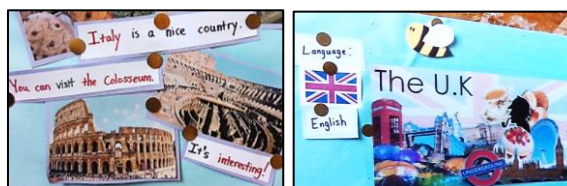
②今日のひとこと英語



日替わりで、日常で使える英会話フレーズを校内2か所に掲示している。日本語の意味、英語の読み方、どんな状況で使うことができるのか等の簡単な解説を掲載している。学校行事が近いときは、行事を英語でどう言い表すかを解説していることもある。児童のみならず、教職員や来校者にも楽しんでもらえるように意識して作成している。

③ALTボードの活用

在籍するALTが特技を活かし、児童の興味を引くようなハイセンスな掲示物を作成している。校内でも好評である。



季節ごとに内容が更新されるので、児童たちも楽しみなようだ。

